

指定管理者評価シート

一 管理運営の状況

1 施設名	仙台市荒町児童館		
2 指定管理者	労働者協同組合ワーカーズコープ・センター事業団		
3 指定期間	令和2年4月1日～令和7年3月31日		
4 施設の利用状況	《利用者数》 ・令和6年度 30,255人(前年度比 118.6%) ・令和5年度 25,518人 ・令和4年度 26,401人		
	《事業》 ・児童に健全な遊びを与え、その健康を増進し、情操を豊かにすることを目的をした児童厚生施設としての事業		
5 収支の状況	《費用》 ・ 指定管理者に支払った費用 43,178千円 (44,103千円) ・ その他市が負担した費用 0千円 (0千円)		
	《収入》 ・ 使用料収入 0千円 (0千円) ・ その他収入 0千円 (0千円)		
6 利用者の声	《実施状況》 ・利用者アンケート、地域懇談会、児童クラブ保護者会を実施。		

二 管理運営に係る評価（モニタリングシートの結果によって評価）

評価分野	所見	評価
I 総則	「児童館ガイドライン」等に基づき、設置目的を踏まえた施設運営上の基本方針を定め、職員への共通理解を図るとともに、館内掲示等で利用者にも周知している。職員の倫理保持・服務規律遵守については、研修や会議で確認する取り組みを行っている。また、地域の特性やニーズを踏まえながら各事業に取り組み、施設目的の達成に努めている。	33/33
II 施設の運営管理体制	職員の配置や業務内容の共有、開館の実績、経理書類の作成、個人情報の保護等について適切な管理体制が構築されている。また、各種マニュアルの整備、施設内外の点検、毎月の避難訓練等の実施により、利用者の安全に留意した運営に取り組んでいる。	31/31
III 施設・設備の維持管理	日常的・定期的な点検や清掃により、建物・設備・外構等が適切に維持管理されている。備品や鍵の管理も適切に行われているほか、施設内外の巡回や仙台市環境行動計画に則った取り組みも実施されており、安全で快適な環境が保たれている。	24/24
IV サービスの質の向上	名札の着用、児童館だよりの発行による利用情報の提供等、利用者が利用しやすい環境づくりに努めている。また、各種研修会への参加を通して職員の専門性を高めているほか、意見箱の設置、アンケートの実施等で利用者のニーズを把握し、施設運営に生かすなど、サービスの質の向上に努めている。	28/28
V 施設固有の基準	児童クラブにおいては、子ども達が安心して過ごせる生活の場を整え、学校を中心に各関係機関と連携して育成支援に取り組んでいる。また、乳幼児親子向けの行事開催や交流の場の提供により子育て家庭を支援すると共に、小中高生に対して、発達段階に応じた遊びの指導や活動支援を行っている。地域との交流事業においては、日頃の情報交換や「回文団扇」をはじめとする様々な工夫を凝らした事業で地域連携の保持に努めている。 なお、職員における虐待や不適切な対応を防止する取り組みについてのマニュアル「職員における虐待等の不適切な行為に対する対応について」を作成し、職員会議やOJTを開催して職員間で周知共有し、子どもの人権に十分に配慮するとともに、子ども一人ひとりの人格を尊重して支援が行われている。	19/18

三 評価総括

《指定管理者（労働者協同組合ワーカーズコープ・センター事業団）による自己評価》
児童館を利用する誰もが安心して利用できるよう利用者のニーズに応え、学びや居場所に繋がる取り組みができるよう児童館運営に努めました。 ○児童健全育成事業 地域先生を招いた「ネイチャークラフト」「絵はがき講座」「体操教室」「折り紙の会」「畑隊」食のイベント「味噌作り教室」「はらぺこあらまち」で、こどもたちの“できた！ワクワク！”が増える貴重な体験の場となりました。 ○子育て家庭支援事業 幼児クラブ「あらまちっこ組」や「お話パーク」季節性のあるイベントや講師を招き「バランスボール」「ママヨガ」「プレパパ・ママ」「ペアレントプログラム」等多様なイベントを実施しました。今必要としている情報は何かを常に意識し行事の設定、乳幼児親子の居場所作りなどを工夫し、運営をおこないました。 ○地域交流支援事業 通算6回目となる「回文団扇授業」を荒町小3年生に向けて授業をおこないました。こどもたちが地域の歴史を学ぶ貴重な体験になりました。また、荒町子まもり防犯プロジェクトも開催し、地域40団体が連携し、こどもたちを守る活動をしました。活動を通して、こどもたちが町に誇りを感じてくれるようになりました。新規事業として、東北学院大学と共催で「クリスマスマルシェ」を開催しました。こどもたちの意見をきっかけに発案し、大学・小学校・児童館が一体となって新たな地域活性事業づくりに貢献しました。「打ち水」「七夕飾り」等の地域のお祭りイベントに参加をすることもたちは、荒町の歴史・文化を伝承し郷土愛を育みました。 ○放課後児童健全育成事業 「英語であそぼう」「スノードーム作り」で近郊の大学や専門学校の学生達とこどもたちが身近に関わる機会を設けました。また、集団遊び、毎日の外遊び等で心身の健康と異年齢交流に取り組みました。有志でのダンスチーム結成や「くじ引き屋」等こどもたちが自らやりたい事を発信し、実現できました。

《施設設置者（仙台市）による評価》	総合評価
児童健全育成事業においては、地域人材を活用した「味噌作り」や「ちょこっとみそ料理」、「畑隊」の活動や市民センター併設を活かして行っている「はらぺこあらまち」のクッキング等、食育活動に取り組んでいる。また中学生がバドミントンの練習で来館した事をきっかけに企画した小学生との交流行事「中学生とバドミントン対決」や、大学生ボランティアによる「てらいくさんとあそぼう」等、異世代交流の場を提供し、こどもの自主性や豊かな人間性を育んでいる。 子育て家庭支援事業においては、令和6年度の新たな取り組みとして、上飯田たんぼぼホームと共催の「たのしい親子関係づくりプログラム」を連続開催し、地域の関係機関と積極的に連携を図りながら子育て家庭を支援している。また登録制の幼児クラブ「あらまちっこ組」は、季節の行事や伝統遊び、制作等、乳幼児に豊かな遊びの場を提供するとともに、保護者同士の交流を広げ、地域の子育て家庭支援に取り組んでいる。 地域交流推進事業においては、大学生の職場体験や学生アルバイト、ボランティアサークル等を受け入れ、近郊の大学との交流が深まっている。令和6年度は地域初のイベント「東北学院大学クリスマスマルシェ」が開催され、児童クラブはダンスチームによる発表で参加し、こども達が地域の一員としての自覚の芽生えと自己肯定感を育む機会となった。また「あらまち子まもり防犯プロジェクト」を開催し、防災教室や防犯訓練等、地域の方との顔の見える関係性の中で、こども達が防犯や防災への意識を高め、地域と関わりながら安心して過ごせる環境作りに努めている。 放課後児童健全育成事業においては、サテライト室で広まった野球カード作りをきっかけに異学年交流の図られる等、こども発信の遊びから集団全体の遊びが豊かになるようにサポートしている。またこども会議の開催や、こどもがやりたい事を自由に書く「みんなのやる木」を作成する等、自己表現ができる場を提供し、こどもの意見を児童クラブの生活作りに活かしている。 また、職場内研修について年間計画を作成し、関係法令や児童館ガイドライン、児童クラブ運営指針に基づいた施設の設置目的の理解や安全管理・危機管理、児童対応等、多様な内容で実施し、児童理解や児童館職員の職責について確認共有しながら職員の資質向上に努めている。	S

四 その他特記事項（上記評価項目の他に、指定管理者の優れた取組み等、特に記載すべき事項があれば記載する）

特記事項

◎ 評価担当課(施設所管課):こども若者局こども若者支援部児童クラブ事業推進課